雪に映える紅

岬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
雪に映える紅

【Ｎコード】
Ｎ７６５８Ａ

【作者名】
岬

【あらすじ】
周囲に恐れられ、一人ぼっちの少女の前に現れたのは……。

ずっとずっと、大嫌いだった。こんな気味が悪い――。

＊　＊　＊

ちらちら舞う雪を見上げて、私は今日もまた溜息をひとつ。

（早く、止まないかな）

私は、冬が大嫌いだ。正確に言えば、雪が。

寒いのは、苦手ではない。本当は、冬だって雪だって好きになりたい。

けれど――。

「寒いから、早くお入り」

背後から、声がした。おばあちゃんだ。わざわざ家を離れて、迎えに来てくれたんだ。

私は、少しうれしくなって元気よく振り返った。

びくりっ

そのとき私の目に映ったもの。おばあちゃんが、一瞬痙攣を起こしたように震えた姿。

ほんの一時だけれど、確かに宿った恐怖。

（あぁ、やっぱり、だめなんだ。私は人に見えない……）

私の肌は、ぬけるように白かった。
私の髪は、瞳は、鮮やかな血の色のように赤かった。
『雪女』――誰かがそう言った。
体温がなく寒さもなく人の心すらなく、生き血を浴びる化け物だと。
それは皮肉にも私にぴったりの表現であった。
それからずっと、冬の間は特に、私は恐れられて来た。
一番親しいはずの、家族にすらも。

私の肌は、ぬけるように白かった。
私の髪は、瞳は、鮮やかな血の色のように赤かった。
『雪女』――誰かがそう言った。
体温がなく寒さもなく人の心すらなく、生き血を浴びる化け物だと。
それは皮肉にも私にぴったりの表現であった。
それからずっと、冬の間は特に、私は恐れられて来た。
一番親しいはずの、家族にすらも。

（雪は赤を目立たせるから……大っ嫌い）

それがどんなに無意味だとしても。私は、少しでも普通になりたいという願いを捨てられなかった。

でも、臆病な私は。
怖がられるのを、嫌われるのを恐れて、いつしか一人でいるようになった。

本当はみっともないくらい、誰かを求めていたのに。

＊　＊　＊

ある冬の日の夕暮れ、小雪がちらつく中で、私は彼と出会った。

「へぇ……君がお嬢さんか」

「どなたですか？」

「君の父上を尋ねて来た者だけれど」

「父さんなら、ここにはいません。母屋の入口は反対よ、こちらは山だけ」

「そうか、ありがとう。……君はどうしてここに一人で？」

考えなくとも、当然の質問だろう。

冬の夕暮れ、若い女の子が一人で山の辺りにいるのだから。

……それが普通の少女ならば。

（だけど、私の姿は普通じゃないのに）

思ったそのとき、私は逆に尋ね返していた。

「あなた……私の姿を見て、何とも思わないの？」

すると、男はきょとんとした。

「？何か変なのか？」
「だって、私の肌は白過ぎるし、髪も瞳も赤いのよ！？」
「それが？」
「何で？あなたは化け物だって、思わないの！？みんな言ってるのにっ……」
私が必死に言うと、なんと男は、くすくす笑い出した。
「何で笑って……
「きれいじゃないか」
呆然とする私に、男はにこりと微笑んだ。
「肌の白と雪の白に、その紅が映えてきれいじゃないか」
そう言われたとき、私の止まっていた心が震えた気がした。
ぽた……。
今まで凍り付いていたものがとけたように、目から滴があふれて頬を濡らした。
「な、何で泣くんだ？」
「わ、私にもわかんな……」
「泣くなよ、まいったな……。

……ああっ、もう！こんなときどうしろっていうんだ！」

馬鹿みたいにおろおろしだした男がおかしくて、私は吹き出した。
男は、そんな私にびっくりした顔を見せた後、照れくさそうに笑った。
今まで出会った中で、一番優しい表情だった。

それが、すべての始まり。

＊　＊　＊

何の因果かつながりかわからないけれど、私はその後、男と旅に出た。
故郷に、懐かしの友人のもとに帰るのだという旅に。
それが視野の狭い世界にいた私を、変えてくれるのだと信じて。

「雪！」

彼が私の名を呼ぶ。
新しい、私が私自身で決めた名を。

「なに？」

私は、あのとき彼がくれた笑顔を思い返してやさしく微笑む。
きっと、もう忘れたりしないだろう。
たとえ何があったとしても、私が私らしくいることを。

白く舞う雪も、それに映える紅も、美しいと思うならばただただ美しいということを――。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7658a/

雪に映える紅

2010年10月16日15時32分発行